

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23520656

研究課題名(和文)中国語教育における「インプット処理指導」の応用研究

研究課題名(英文)The application of Input processing instruction in Chinese language teaching

研究代表者

劉 愛群 (Liu, Aiqun)

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・特任准教授

研究者番号：60469145

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本の大学の中国語学習者を対象として、中国語教育においてはまだ例の少ないインプット処理理論を導入し、学習者の注意、気づきを促しつつ学習事項を定着させる新しい文法指導法の応用を検討した。具体的に、三種類の言語項目の習得における中間言語の変容に関して、理論的及び実証的な見地から検討を加えた。これらは、アスペクト助詞「過」、「把」構文及び副詞「就」と「才」の習得の考察と「インプット処理指導」の介入である。本研究では、中国語の習得研究と教授法の両者を同時に扱う研究分野を切り拓き、中国語学習者の認知的学習ストラテジーに対し、教室でどのような指導を行うべきかの提言を試みた。

研究成果の概要(英文)：This study, involving both acquisition research and language instruction, mainly discusses the relative effects of 3 quasi-experimental studies of teaching aspect article "guo" "ba" construction and adverbs "cai" and "jiu" in Chinese language teaching to Japanese speaking university learners through Processing Instruction (PI). PI is an input-based explicit grammar instruction with an emphasis on changing learners' inappropriate input processing strategies. It tries to direct learners' attention to form and makes them rely only on form or structure to get meaning in a meaningful context. The present findings suggest that it's possible to employ PI into a different type of language instruction, and also possible to verify the same efficacy of PI with a more complex form-meaning relationship. The tentative results support the application of PI to Chinese language teaching, and argue that it's important to increase the amount of well-designed language input before production practice.

研究分野：外国語教育、中国語

キーワード：インプット処理指導 認知的学習ストラテジー 中国語習得 文法指導 誤用 アスペクト助詞「過」「把」構文 副詞「就」と「才」

1. 研究開始当初の背景

中国語の習得に影響を与えるものには、大きく分けて内的要因及び外的要因の二種類がある。例えば、言語習得のメカニズム、動機づけ、学習方略などは内的要因で、インプット環境などは外的要因である(Ellis 1994)。本研究では、内的要因の一つ言語習得のメカニズムと外的要因の一つインプットがいかに関与するかという点に着目して展開していく。現在、第二言語習得の研究においては、言語習得のメカニズムに関して様々な側面から解明が進みつつ、そして、言語習得のメカニズムを配慮し、より効果的な教え方に結びつける研究、例えば、教室内の第二言語習得研究に注目が集まっている。その分野の焦点は「いかに教えるか」から「いかに習得されるか」へと移った経緯がある。認知的アプローチはその流れの一例で、言語習得のプロセスにより合致するよう、言語習得の内的要因を配慮した、実践的な言語運用能力を高める文法教育を目指している。認知主義的言語教育理論では、意味重視の学習に焦点を当て、学習者が意味と形式との連携(form-meaning mapping)を築き上げることが言語教育の本質だとしている(VanPatten 1996、2004 など)。桂詩春(2000)によれば、復唱などで頻度を上げることや、意味を付与することといったリハーサルの水準によって、短期記憶から長期記憶への転送は大きく変化する。意味の付与のない浅い水準のものでは、リハーサルが終わるとすぐに忘却されてしまうことになるため、意味的符号化や能動的で深い水準の処理が必要となる。したがって、浅い水準の機械的なドリルでは限界があり、意味と連携のできるものが重要だと考えられる。そして、短期記憶から長期記憶への転送の中では、「注意」が重要な役割を果たしている(徐子亮 2003)。近年の研究においても、学習者の目標言語習得を促進するため、意味のある文脈の中で学習者の注意を言

語形式にも向けさせ、言語形式と意味・機能の関係づけができるような指導を行うべきだ(小柳 2002)と提言されている。

本研究に関わった「インプット処理指導(Processing Instruction :PI)」は、まさにこのようなものである。ここでの「処理」とは、学習者がある言語形式にその現実世界の指示的な意味を付与するプロセスを指す。VanPatten (1996)などは、第二言語習得過程において「インプット〔 〕内在化〔 〕発達中の中間言語体系〔 〕アウトプット」という三つのプロセスがあるとする。伝統的教授法では明示的学習を行った後、〔 〕に焦点を当て、アウトプット中心の学習を行っていた。VanPattenらは、学習者にインプットが感知され処理される方法に変えるよう、〔 〕に焦点を当て、インプット処理を促す練習をした方がよいと提案する。その提案がPIである。PIは、学習者が目標言語のインプットを処理する際に用いるストラテジー(Input Processing strategy)を意図的に改善させることによって、学習者に多くのインプットの処理をもたらす、高い水準の意味的処理が起きるよう、内在化のプロセスを促進させるものである。このアプローチは、第二言語習得を促進できるかどうかはインプットの与え方に大きく関わっているという観点をとり、伝統的なパターン・プラクティスや会話練習などのような産出活動を学習者に強要せず、意味のあるコミュニケーション活動の中で、学習者の文法知識の形成に教育手段を通じて貢献しようとするものである。

日本での中国語教育、特に文法指導においては、機械的繰り返しの練習を通じて覚えさせ、行動主義的な方法が初級段階でまだ広く使われている。この方法は、教育側や学習者側にとって馴染み深いもので、扱いやすく、言語習得に一定の効果があることは否めない。しかし、この方法は、意味のある

(meaningful) 練習、及び練習の多様化に欠けており、言語がコミュニケーションの道具であることを示す点で弱い。また、学習者の認知的ストラテジー、いわゆる「いかに習得されるか」の見地からの考慮がまだ不十分だと言わざるを得ない。教育現場においては、文法項目の導入直後に産出練習に入る傾向があるため、習得に必要な目標言語を理解させる過程が弱いと考えられる。また、これまでの中国語習得研究は、多くが語学の研究や実践報告をめぐって行われ、文法指導に関して、教育学と心理学の研究成果に目を向けるようになりつつあるが、実証的な裏づけはまだ不足している。そこで、本研究では、解決策の一つとして、PI の介入によって、教育手段の多様化に一定の指針を与える試みを行い、実践的研究としてこれまでに西欧語の教育を中心に用いられた PI が日本の中国語教育にも有効であることを明らかにする。

2. 研究の目的

本研究では、日本の大学の中国語学習者を対象として、中国語教育においてはまだ例の少ないPI 理論を導入し、学習者の注意、気づきを促しつつ学習事項を定着させる新しい文法指導法を検討する。具体的には、中国語の習得研究と教授法の両者を同時に扱う研究分野を切り拓き、中国語学習者の認知的学習ストラテジーに対し、教室でどのような指導を行うべきか提言したい。

3. 研究の方法

本研究は主に四つの調査から構成されている(表1)。調査1、調査2は及び調査4は、複数のグループの学習者を対象に、教室指導(PI 及び伝統的文法指導 Traditional Instruction:TI) の介入を一定の期間に渡って行い、性質の異なる介入の効果を比較し、学習結果を検証するものである(図1、表2)。これらの調査では、事前・事後テスト法を利用し、それぞれの文法項目の習得の様相に焦

点を当てている。データ分析に関して、主に量的研究のもので、テストなどで得られた結果を統計的手法で処理する。一方、調査3は、言語習得のある側面の描写、各要因間の複雑な因果関係の解明を行い、解釈的研究である。この調査は、主にペーパーテストによって行った横断的研究で、テストの形式が概ね上記の各調査と同じである。

	調査内容	調査のデザイン	期間
調査1 58名	スペクト助詞“过”の習得とPIの介入	通常の授業において、事前・事後テスト法により、実験群、対照群に分けて行った準実験的研究	5週間未満
調査2 58名	“把”構文の習得とPIの介入。	同調査1	5週間未満
調査3 296名	副詞“就”と“才”の習得状況に関する調査	テストによる文法性判断タスクによって行った横断的研究	約3年間
調査4 51名	副詞“就”と“才”の習得に関するPIの介入	同調査1	約2週間

表1. 本研究で行われた主な調査

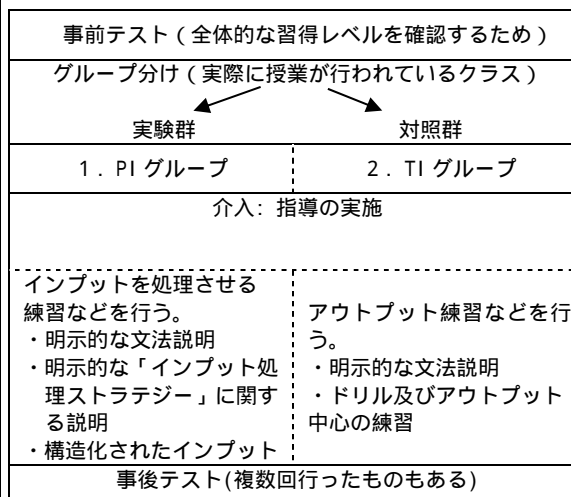


図1. 調査1、調査2及び調査4のデザイン

形式	問題例
選択	関連項目の使用の判断
並べ替え	・高中的时候、打、你、过、工、吗？ 你高中的时候打过工吗？ ・先、在、车、停、把、停车场。 先把车停在停车场。
翻訳	・宿題を先生に提出しましたか？ 你把作业交给老师了吗？ ・私は何回も聞いてやっと分かった。 我听了很多遍才明白。
作文 穴埋め	・我看过/我没看过。 ・如果她不喜欢，(就)不要勉强她。

表2. 各調査に使われているテストの例

指導の内容に関しては、PI で行われる「構造化されたインプット」の活動には、主に二種類の「参照的練習」及び「参与的な練習」である (Lee & VanPatten 2003 など)。「参照的練習」とは、学習者が正誤の判断を適切に行うため、目標言語のある言語形式のみを頼りに意味をとる練習を行うものである。例えば、図2の練習では、学習者に言語形式“過”のみによって文の意味をとらせる狙いが見える。図3は「参与的な練習」の例で、このような練習では、学習者は、情報や認識などを交換する活動を行い、自分の意見や信念などを表したりする。この練習において、コミュニケーション活動は意味のある活動の中に織り込まれている。

以下の文を聞き、適語を()に書き入れなさい。さらに、それぞれの文についての時を示す語句や説明を選び、___に入れなさい。

1)我___{以前、明年、常常、有时候}(吃过)涮羊肉。
 2)我___{今天、明年、常常、有时候}(吃)涮羊肉了。
 3)他(来过)。___
 {A他现在不在这儿。 B他现在在这儿。}
 4)他(来了)。___
 {A他现在不在这儿。 B他现在在这儿。}

図2. PI 指導の例:「参照的練習」

你要去中国旅行,东西太多,有手机、伞、课本、照相机什么的。这些东西怎么办?都带吗?
 以下の文を聞き、適語を()に書き入れなさい。さらに、自分の考えに合うものを選び、文末の()につけましょう。

1)应该(把手机)带着。()
 2)应该(把伞)放在包里。()

図3. PI 指導の例:「参与的な練習」

4. 研究成果

(1) 関連項目の習得及び「インプット処理ストラテジー」に関する考察

本研究で扱った言語形式は全て機能語で三種類四項目がある:アスペクト助詞“過”、前置詞“把”による構文、及び副詞“就”と“才”。これらの項目は習得されにくいものである。本研究はまず、それぞれの項目の習得を中心に、先行文献を調べ、各項目の言語形式の意味と用法、教育文法中での扱い方、誤用の構成、認知的学習ストラテジーの影響

言語項目の特徴及び習得上の困難点	
過	動詞の直後にくるアスペクト助詞「(過去の)経験」もしくは「(動作行為が)済んでいること」などの意味。文の中に位置し、動詞の後にくるもので、軽く発音され、言語形式の目立ちやすさが低い。学習者の中間言語において、語順の間違いと脱落が多く観察される。
把	「処置」を表す前置詞中国語文法、教授法及び習得研究の中で最も議論された項目の一つ。この構文は、「処置」の意味を表すと言われるが、意味機能や使用条件が複雑で、複数の言語項目にも関わっている。「処置」の意味は、前置詞“把”によって示されるだけでなく、文中の動詞と付加成分によって示される場合も多い。言語形式の伝達価値が低い。学習者の中間言語において、語順の間違いと脱落と関連項目の間違いが多く観察される。また、初級段階での学習者の産出に関して、「把」構文自体の回避が多い。
就才	「時間的に早い・遅い」、「実現しやすい・しにくい」などの「主観量」を示す副詞。文の中の時間・数量・動量表現などと共なる場合が多い。学習者の中間言語において、語順の間違いと脱落が多く観察される。
「インプット処理ストラテジー」	
過	「文中の位置の原則 (Sentence Location Principle)」、学習者は、文中の言語形式より文頭にあるもの或いは文の最後にあるものを先に処理する傾向がある。
把	「語彙の意味の優先の原則 (Lexical Preference Principle)」、学習者は、文中の「処置」の意味を文法的なマーカーや語順を頼りに捉えるのではなく、内容的表現から捉える傾向が強い。認知上、学習者の選択的「注意」と限られた短期記憶の容量、そして複雑な「把」構文の性質の相互作用によって、部分的で不完全な関連づけが生じやすい。
就才	「語彙の意味の優先の原則 (Lexical Preference Principle)」、学習者は、文中の「主観量」の意味を文法的なマーカー“就・才”や語順を頼りに捉えるのではなく、「主観量」を示す内容的表現から捉える傾向がある。

表3. 本研究で扱われた言語項目及び「インプット処理ストラテジー」

などを調査した。例えば、各考察では、初級学習者の中間言語において、関連項目の混同、脱落、添加及び語順の問題などの誤用を取り上げ、また、誤用の要因に関して、母語からの干渉、言語形式の複雑さ、学習者の中間言語ルールの過剰一般化、学習方略や他の第二言語の学習経験などによるものだと分析している。そして、学習者がどのように関連項目を処理しているのかに関して、上記の要因の影響の他に、「意味内容中心」の「インプット処理ストラテジー」が働いていることを検討した(表3参照)。

(2) 教室指導に関する調査:「インプット処理指導(PI)」の介入

調査1、調査2及び調査4は上記の三種類の言語項目の習得に関して、大学1年次後期の学習者を対象に、伝統的な文法指導(TI: 明示的な文法説明や文型のドリル及びアウトプット中心の発話練習)と比べ、「インプット処理指導」のPIは、より効果的であるのか、という点を巡って考察を行った。表4~6及び図4~6は各調査の結果のまとめである。これらの表によると、すべての事前・事後テストの平均得点に関して、PI実験群とTI対照群の間に、統計上有意な差がないことになる。このように、PIはTIより良いという結果は得られていないが、指導後の習得のレベルはPI実験群とTI対照群では、同じであったことが分かった。また、事後テストの結果の傾向に関して、インプット中心のPIの方がTIよりやや高いことが分かった(図4の各事後テスト、図5の事後テスト1と事後テスト2)。このように、教室指導の中で、インプットの量を増やし、学習者に強要するアウトプットの量を減らすようなPIが一つの選択肢として中国語の文法指導に取り入れることで、産出練習の前の段階としてのインプットの効果を高める可能性が示唆されたといえる。

過	PI (N=26)		TI (N=32)		t	p
	Mean	SD	Mean	SD		
事前	70.0	6.74	74.5	5.41	0.269	>0.10
事後1	62.3	9.63	58.4	14.52	0.284	>0.10
事後2	87.9	7.65	81.6	8.29	0.121	>0.10

表4. 調査1の事前・事後テストの結果

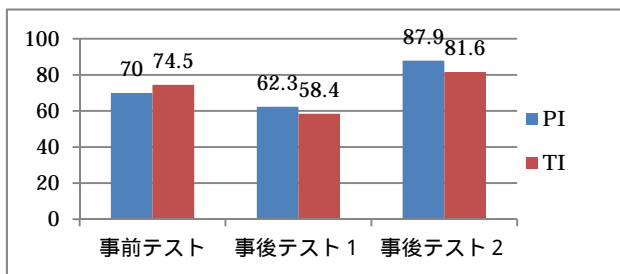


図4. 調査1の事前・事後テストの結果
本研究の各調査の全ては日常の授業の中

で行われたもので、普段の授業の進度などを配慮しなければならなかった。そのため、指導の直後ではなく、指導の一週間後の遅延テスト(事後テスト1)しか行えなかった。したがって、関連ルールの記憶定着に影響を与えた可能性があると考えられる。また、TI指導で行った練習の中では、順番の並べ替え、翻訳そして総合練習があり、事後テストの問題の形式と似ている点で、TI対照群にとって有利な可能性があると言える。

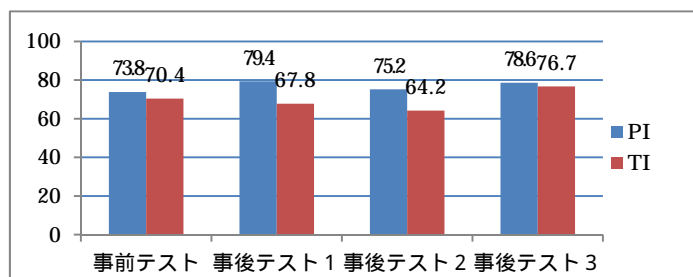


図5. 調査2の事前・事後テストの結果

把	PI (N=25)		TI (N=33)		t	p
	Mean	SD	Mean	SD		
事前	73.8	2.27	70.4	2.55	0.306	> 0.10
事後1	79.4	6.19	67.8	7.35	0.204	> 0.10
事後2	75.2	9.10	64.2	9.97	0.363	> 0.10
事後3	78.6	4.21	76.7	4.84	0.409	> 0.10

表5. 調査2の事前・事後テストの結果

就/才	PI (N=26)		TI (N=25)		t	p
	Mean	SD	Mean	SD		
事前	73.4	2.20	73.8	2.55	0.47	>0.10
事後	74.4	4.74	77.6	2.00	0.31	>0.10

表6. 調査4の事前・事後テストの結果

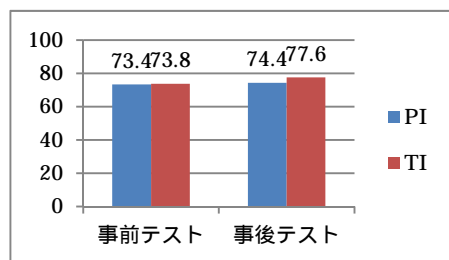


図6. 調査4の事前・事後テストの結果
本研究での各調査は、「インプット処理指

導」の応用の一側面を捉えたとは言え、学習者の「語彙の意味の優先原則」や「文中の位置の原則」を対象に、学習者の理解を深めるプロセスに重点を置いたものであった。一方、学習者の中国語のレベルや調査に許された時間なども限定され、関連項目の習得の一部を分析するだけのものになっている。この調査は、文レベルや文法性判断そして数少ない産出のタスクなどに限られ、指導の長期の効果などの考察は更に必要であろう。

本研究は、学習者の習得のプロセスを最適化するため、どのような指導を与えるべきかを検討してきた。実際の教育現場での学習上の問題点を扱うものとして、今後の効果的な教室活動の展開や教材開発に対する示唆を与えることができると願いたい。最後に、本研究に協力してくださった日本の中国語学習者の方々に感謝したい。学習者の方々が中国語の学習に熱意を注ぐことがなければ、本研究は成り立たなかったはずである。また、学術研究助成基金助成金のご支援もいただき、大変感謝している。

< 主な引用文献 >

- Ellis, R. (1994). *The Study of Second Language Acquisition*. Oxford: Oxford University Press.
- Lee, J. F. & VanPatten, B. (2003). *Making Communicative Language Teaching Happen*, Second Edition. New York: McGraw-Hill.
- VanPatten, B. (1996). *Input Processing and Grammar Instruction in Second Language Acquisition*. Norwood, New Jersey: Ablex.
- VanPatten, B. (2004). *Processing Instruction: Theory, Research, and Commentary*. Mahwah, New Jersey: Lawrence Erlbaum.
- 小柳かおる (2002) 「展望論文: Focus on Form と日本語習得研究」、『第二言語としての日本語の習得研究』5号、62-96
- 桂詩春 (2000) 《新編心理语言学》, 上海外语教育出版社
- 徐子亮 (2003) 学习主体感知和记忆汉语的特点, 《对外汉语研究的跨学科探索》299-309, 北京语言大学出版社

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計3件)

劉愛群 (劉愛群、以下同) (2015) “才”和“就”的习得情况考察, (“才”と“就”の習得に関する考察 誤用分析の観点から) 『メディア・コミュニケーション研究』第68号79-93 査読なし

劉愛群 (2014) “输入处理指导”与汉语初级阶段的语法教学 从“把”字句谈起, (“インプット処理指導”と中国語初級段階での文法指導 “把”構文に着目して) 『メディア・コミュニケーション研究』第67号55-68 査読なし

劉愛群 (2012) 日本大学汉语学习者“过”的习得情况调查, (日本の大学の中国語学習者の“過”の習得に関する調査) THE 10TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON CHINESE LANGUAGE PEDAGOGY、《国际汉语教材的理念与教学实践研究 第十届国际汉语教学学术研讨会论文集》140-147, 浙江大学出版社 査読あり

[学会発表] (計4件)

劉愛群 (2013) “输入处理指导”与汉语初级阶段的语法教学 从“把”字句谈起, “汉语国际传播历史”国际学术研讨会暨世界汉语教育史研究会第五届年会, 2013年9月20日~22日, 天津外国语大学(中国)

劉愛群 (2012) 日本大学生“把”字句的习得情况调查, 中国对外汉语修辞研究会第六届学术研讨会, 2012年11月2日~4日, 天津外国语大学(中国)

劉愛群 (2012) 日本大学汉语学习者“过”的习得情况调查, 第十届国际汉语教学学术研讨会 (THE 10TH INTERNATIONAL CONFERENCE ON CHINESE LANGUAGE PEDAGOGY), 2012年6月27日~29日, 浙江大学(中国)

劉愛群 (2011) 日本汉语学习者的认知策略对动态助词“过”习得的影响与教学对策, 日本中国語教育学会第9回全国大会、2011年5月28日~29日、愛知大学(豊橋キャンパス)

6. 研究組織

研究代表者

劉愛群 (LIU, Aiqun)

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・特任准教授

研究者番号: 60469145